

多賀中学校だより

令和7年3月24日
第12号
校長 山本 順

学校教育目標 豊かな人間性を持ち、たくましく生き抜く力をそなえた生徒の育成
～ひとすじに学び、たくましく鍛え、すこやかに励む～

校訓 じゅんこう 醇厚 ごうけん 剛健 えいち 叡智 ふくつ 不屈

67名の卒業生が巣立ちました

3月11日に行われた卒業式では、67名の卒業生がこの多賀中学校を巣立っていきました。様々な思い出を胸に立派に旅立ちました。4月からは、新しいステージで元気に活躍してくれることを心から祈っています。

こんな詩を送ります。知っていますか。

「1秒の言葉」 小泉吉宏

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に一生のときめきを感じることがある

「ありがとう」

この一秒ほどの言葉に人の優しさを知ることがある

「がんばって」

この一秒ほどの言葉で勇気がよみがえってくることがある

「おめでとう」

この一秒ほどの言葉でしあわせにあふれることがある

「ごめんなさい」

この一秒ほどの言葉に人の弱さを見ることがある

「さようなら」

この一秒ほどの言葉が一生の別れになる時がある

一秒に喜び 一秒に泣く

一生懸命 一秒

この詩は1度だけ、テレビでCMとして放送されました。あるいは小学校で道徳の時間に学習したかもしれません。卒業生たちは中学校3年間で何度、この1秒の言葉を人から伝えられましたか。たった1秒の短い言葉でも、勇気が湧き、心を温かくすることができます。一方で、相手を傷つける1秒の言葉もあります。多賀中学校での1秒の言葉は、自分や相手に、元氣と勇気を与えるものであってほしいと願います。卒業生の学年は、いい意味でノリノリの学年、お祭り好きな学年、盛り上げられる学年と言われてきました。3年間で多くの勇気の出る、また元氣の出る言葉を聞いたと思います。つまり、1秒の言葉を人に伝えることができる人が多かったということです。「人に応援される人」というのは、相手を傷つけるような言葉づかいを慎み、真心を持って接しようとすることも大切な1つだと思います。卒業生の皆さん、次のステージでもしっかりと自分を磨いてください。

保護者様、地域の皆様へ

令和6年度、多賀中学校教育活動に多大なご支援、ご協力を賜りありがとうございました。

保護者の皆様や地域の皆様に信頼される学校づくりを目指して今後も尽力して参ります。令和7年度もご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4月8日（火）新2・3年生の予定

○8時25分までに登校

- ・朝の会（旧学級のまま）
- ・新学級発表
- ・新任式
- ・ランチ、帰りの会
- ・校舎清掃および入学式会場設営

新2年バス 14:55

新3年バス 15:55



4/8（火）新任式、入学式準備

23年PTA学級委員投票用紙配布

9（水）入学式13:30開式、始業式

1年PTA学級委員投票用紙配布

10（木）クラス写真、2年実力テスト(国数社)

11（金）PTA本部役員会、2年実力テスト(理英)

14（月）3年範囲テスト、1年身体測定

15（火）3年理科CBTテスト、検尿一次

16（水）生徒会専門員会、検尿一次、耳鼻科検診

17（木）全国学学調査（3年国数）、2年身体測定

18（金）PTA委員総会、3年身体測定

23（水）～25（金）

3年修学旅行（広島方面）

30（水）心電図検査

校長室より

校庭の桜にもつぼみが顔を出し始め、頬を伝う風にも春の息吹を感じる今日の良き日、久保多賀町長はじめ、山中教育長、町議会議員、教育委員の皆様また保護者の皆様にはご隣席を賜り、令和六年度卒業証書授与式を挙行できますことに、高い席から

ではございますが、深く感謝を申し上げます。

六十七名の卒業生が第五十七回卒業証書授与式を迎えられたことを大変うれしく思います。今日、この日を迎えられたことは、皆さんが3年間の中学校生活の中で、努力し、成長してきた証です。家族や友達、担任の支えがあってこの日を迎えることができました。感謝の気持ちを忘れず新たな一歩を踏み出して欲しいと思います

この三年間、六十七名の卒業生にしか経験できなかったことがありました。能登半島の地震で修学旅行が延期され、訪問先も変更されました。また、熱中症対策で部活動の時間が制限されたこと。多くの活動が制限されましたが、世界的なパンデミックを経験し、それを乗り越えてきた君たちだからこそ、限られた中で日々努力でき、喜びを見つけ、楽しく学校生活を送れたんだと思います。あなたたちは、今後も様々な経験をし、学び、成長していくことと思います。そして、その経験はこれから、あなたたちの人生に必ず生きます。未来を想定して生きることができるのは人だけだと言われています。常々「誰からも応援される人になって下さい」「挨拶ができる人になってください」「ルールが守れる人になってください」と言っていますが、そうすることがどういう結果をもたらすかが想像できはすです。さて、君たちに多賀中学校職員を代表して二つ話をしたいと思います。卒業生は最後の授業だと思って聞いて下さい。

一つは、「自分を高める」ということです。世の中には「めんどくさい」「やりたくない」ということで溢れています。しかし裏を返せばそれは「やった方がいい」と解っているからです。是非、特にこれからは、「願望」ではなく「意思」を持って下さい。ところで皆さんは、「願望」と「意思」の違いがわかりますか。「願望」は、自分で左右できないことに向けられた欲望、想いです。「意思」は、自分で左右できる欲望・想いです。「明日晴れるといいな」は「願望」、「次のテストで80点取りたい」は自分の力で何とかすることができる「意思」です。**「意思」は、努力と結びつき、活動的かつ生産的であり、今の自分の生活を楽しむ事ができます。「意思」と「努力」で自分の未来を変えることができるのです。**

これまで皆さんは色々な事に挑戦し数多くの壁も経験してきたことでしょう。意思をもって、行動を起こすことが、自分を高め、幸せにつながると思います。厳しいことをいいますが「頑張ります」というだけの、具体性も合理性もない言葉では成果は上がりません。大切なのは**「何のために、何をするか」という「意思」をもつことです。**

二つ目は、「感謝」です。中学校三年間、楽しいことやうれしいことばかりでなくつらいことや悲しいこともあったと思います。私たちは、一人では生きていくことはできません。人は、困難に遭えば遭うほど、また苦しければ苦しいほどお互い助け合って生きていくという知恵を持っています。そんな時こそ**「感謝の気持ち」を大切にしてほしいのです。必ず言葉で伝えることが大切です。**今日、帰ったらあらためてお家の人に、「今日、中学校を卒業しました。ありがとうございました」と伝えてほしいと思います。卒業生への中学校最後の宿題です。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。多くの心配やご苦労があったことと思います。いままでお子様に注がれた溢れんばかりの愛情が実を結び、今日を迎えることができました。あらためてお祝い申し上げます。また三年間、本校の教育活動に対しまして、ご理解ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。それでは卒業生の皆さん、名残は尽きませんが、皆さんの前途に幸多かれとお祈りし式辞と致します。

令和七年三月十一日